

## 平成27年度第1回理事会・評議員会合同会議および定時総会開催について

### 平成27年度第1回理事会・評議員会合同会議について

5月19日、経団連会館にて平成27年度第1回産業ガス部門理事会・評議員会合同会議を開催しました。今年度の活動方針などに関する間会長の挨拶の後、議長に選出された間会長の進行により、事務局各担当者による事業活動・計画についての報告がプロジェクターを使用して行われました。この他、評議員候補者3名に関する議題等も全会一致ですべて承認されました。

### 定時総会開催について

6月17日、経団連会館にて部門総会・定時総会を開催しました。午前中に会長記者会見を開催し、午後からはシンポジウム、総会前理事会、総会、総会後理事会、懇親会と続き、総会では平成27年表彰受賞者の表彰式を行いました。

シンポジウムでは約150名の受講者を前に、岩隈秀峰副部会長（技術・保安部会）の挨拶後、①「SDSの改訂」

（知多炭酸(株)長谷川光一氏）、②「添付文書とコンプライアンス」（日本エア・リキード(株)岡村和也氏）、③「ISO 9001:2015改訂の概要」（高圧ガス保安協会 山内順司氏）の3テーマの講演が行われました。

部門総会・定時総会では間会長の挨拶があり、部門総会における各部門の評議員候補の承認後、定時総会において、事業報告・計画、決算・予算、評議員・理事・幹事の選任等、すべての議題が全会一致で承認されました。

その後の表彰式では、協会の事業に協力し成果をおさめた産業ガス部門、医療ガス部門各17件の個人や事業所に対して功労賞、安全賞等として、間会長より表彰状と記念品が授与されました。表彰理由と受賞者の一覧をP2～3に掲載しています。

懇親会は約270名が出席し、盛大に開催されました。間会長の挨拶に続き、厚生労働省 二川



間会長挨拶

医政局長、経済産業省 谷審議官、高圧ガス保安協会 作田会長による来賓の挨拶、今井副会長の乾杯で始まりました。和やかに懇親会が進み、鈴木副会長の中締めにより全ての催しが滞りなく終了しました。

皆様のご挨拶は9月末発行の「産業ガスレポート秋号」に掲載予定です。（産業ガス部門・石原 智子）



受賞者の皆様

## JIMGA平成27年表彰受賞者一覧 &lt;産業ガス部門&gt;

賞区分	受賞者名(敬称略)	受賞理由
業務 功労賞	企画部会 電子データ交換標準化WG 沼田 博美 (WG長) 斉田 修実、佐久間 剛、秋宗 隆司、 及川 哲、竹村 忠、佐藤 輝彦、 三戸 勇一、富山 寛考、鈴木 敬治	業界内の取引に電子データ交換を利用するため、取引情報を標準化し、電子データ交換取引(EDI)システムを完成させた。RFタグに格納された全情報の交換を容易にし、従来の取引方法に対して大幅なコスト削減を実現した。
標準化 功労賞	環境・安全部会 化学品安全WG 平野 正 (WG長) 桑野 晃一、武内 幸祐、長谷川光一、 磯部 佳伸、土屋 茂、三好 伸二、 村瀬 圭一	国際的なGHS基準に従い、一般高圧ガスの「安全データシート(SDS)」(32品目)を作成した。また、「胴ラベル」(34品目)、「肩ラベル」(31品目)、「SDSガイドライン」の改訂を行った。
	技術・保安部会 特殊ガス技術WG 米村 泰輔 (WG長) 平井 学、薬師神啓孝、森脇 保志、 片村 浩一、三澤 一朗、真子 恵一郎、 五十嵐淳也、豊田 隆弘、星 友昭、 渡辺 勇夫、岩崎 恵樹、吉川 俊郎、 木曾 幸一、村瀬 圭一、三本 敦久、 上原 伸二	特殊ガスの「安全データシート(SDS)」(78品目)全てを全面的に改訂した。見直しにあたっては、メンバー各社の知見をもとに、お客様がより安全に使用できるように、細部にわたり統一を図った。
	国際部会 IHC対応WG 仲山 一郎 (WG長)	長年にわたり、IOMAのIHC4協会(AIGA、CGA、EIGA、JIMGA)基準の国際統合化活動に貢献した。また、IHC会議において、日本における基準化の状況や法規制に関する積極的な発言により、日本のプレゼンスの向上に尽力した。
保安教育 功労賞	四国地域本部 技術・保安部会 近藤 哲司 (代表) 藤井 保秀、田中 智博、篠原 和伸、 河野 直史、竹内 正則、鈴木 利光、 小林 統、古田 正彦、安部 元行、 川崎 起樹、立花 靖司、一色 貴志、 住吉 直人、樋笠 和樹、木村 昭夫、 片山 昌也、三輪 朗、武智 元、 伊藤 聖哉	長年にわたり、高圧ガス事故防止啓発のための講習会開催を継続している。また、保安講習会題材として、冊子「みんなで学ぶ保安の知識」を作成した。
容器保安 功労賞	岡山エア・ウォーター株式会社 代表取締役社長 松本 久昭	長年にわたり、放置容器・不明容器の撲滅に向けた啓発を行い、率先して回収に努めている。また、積極的な働きかけにより、岡山県での高圧ガス容器管理指針(平成26年制定)に至った功績が大きい。
地域活動 功労賞	神奈川合同アセチレン株式会社 常務取締役 工場長 澤田 秀則	長年にわたり、溶解アセチレンの製造業務に携わるなかで、JIMGA本部ならびに地域本部の活動の中心となり、アセチレンに関する基準やガイドラインの作成という成果をあげた功績が大きい。
安全賞	岩手工業株式会社	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を69年継続している。
	株式会社サイサン 伊奈高圧ガスセンター	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を32年継続している。
	株式会社千葉サンソセンター	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を36年継続している。
	東海アセチレン株式会社 浜松工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を26年継続している。
	共同高圧ガス工業株式会社	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を41年継続している。
	岩谷瓦斯株式会社 中部事業所 名古屋工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を45年継続している。
	中国アセチレン株式会社 小野田工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を58年継続している。
	株式会社水島オキシトン 水島工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を35年継続している。
	四国アセチレン工業株式会社 西条事業所	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を29年継続している。
鹿児島オキシトン株式会社 国分工場	日々の保安教育を徹底し、無事故・無災害を37年継続している。	

## JIMGA平成27年表彰受賞者一覧 <医療ガス部門>

賞区分	受賞者名 (敬称略)	受賞理由
技術 功労賞	丹羽 正武 (前 株式会社小池メディカル)	長年にわたり技術委員を務め、医療ガス取り違え事故防止の根幹となる医療ガス容器表示基準の制定に際してWG長を務めるなど協会技術文書作成に多大の貢献をされた。
標準化 功労賞	添付文書改訂サブWG 米良 吉昭、岡村 和也、西本 敬輝	液体酸素・液体窒素の添付文書の一括届出、日本薬局方二酸化炭素の添付文書の効能効果追加を実現するなど、協会と会員の業務効率化とガスの取り違え防止に貢献した。
	品質標準書改訂WG 中島 昭人、長谷川正泰、長谷川弘毅、 片岡加寿弘、杉岡 孝雄	協会の「医療用ガスに関する製造管理及び品質管理の基準」と従来の「品質標準書」等の整合性を検討し平成26年11月に改訂版を発行、医療ガスの品質向上に貢献した。
保安教育 功労賞	NPO法人 日本呼吸器障害者情報センター (代表：遠山 和子)	協会が主催する在宅酸素保守点検従事者講習会の講師を長年務め、呼吸器疾患患者の実態等を受講生に分かりやすく解説するなど在宅酸素従事者の知識向上に貢献されている。
	加藤 展弘 (函館酸素株式会社)	長年にわたり医療ガス保安講習会の運営に尽力する傍ら、自ら講師を務めるなど保安教育の充実に貢献している。
	中村 明 (株式会社中村酸素)	長年、技術委員長として中国地域本部の「草の根講習会」の開催を主導し、自らも講師を務めるなど保安教育に貢献している。
地域活動 功労賞	並河 勉 (山陰酸素工業株式会社)	長年にわたり中国地域本部の副本部長を務め、ことに鳥取・島根県との災害時協定締結に大きく貢献した。
安全賞	株式会社ユミヤマ	長年、無事故・無災害を継続するほか、福島県内の医療ガスの保安活動に貢献している。
	第一開明株式会社 横手営業所	長年、無事故・無災害を継続するほか、秋田県内の医療ガスの保安活動に貢献している。
	株式会社サイサン 医療ガス部 栃木営業所	長年、無事故・無災害を継続し、顧客への保安教育にも率先して取り組んでいる。
	小池酸素工業株式会社 千葉工場	長年、無事故・無災害を継続し、販売店・顧客に対してもきめ細かい保安指導を行っている。
	沼津酸素工業株式会社	長年、無事故・無災害を継続し、保安関連規定の見直し、防災訓練も定期的に実施している。
	株式会社ナック	長年、無事故・無災害を継続し、日々の保安教育を徹底している。
	有限会社大玉溶材	長年、無事故・無災害を継続し、毎月保安教育を徹底している。
	株式会社ダイオー 生産事業部 北大阪工場	長年、無事故・無災害を継続し、作業環境の改善や業務標準化を通じて安全・衛生推進活動を展開している。
	広島日酸株式会社	長年、無事故・無災害を継続し、KHK主催の講習会の講師を務める等、地域の安全確保に貢献している。
	北島酸素株式会社 土成工場	長年、無事故・無災害を継続するほか、災害対策にも注力している。

## 会員紹介 —相模アセチレン株式会社—

### 設立当初

相模アセチレン株式会社は、昭和34年に現在の地、横浜市瀬谷区で設立されました。創業者である佐波準之助（当時：株式会社サナミ商会 社長）と、共同経営者である東助成（当時：日東工機株式会社 社長）の理念である「経済の基本は物造り」のもと、溶解アセチレンガスの製造を開始しました。

当時、資本金を土地の整備と充填設備に使い切り、高価だったアセチレン容器を大量に揃えるため、多額の資金が必要になりました。「創業当初とはいえ赤字の決算書を持って、融資を申し込みに来た人は珍しい」と言いながらも、意気込みだけで融資をしてくれた銀行の上席担当者がいて助かったそうです。今ではなかなか考えづらいのですが、高度成長期の日本を表す「良き時代」として逸話となっています。

### 需要拡大とともに

アセチレンガスは造船や自動車産業において需要が多く、昭和36年には早くも増資を行い設備を増強し、翌年には高圧ガス容器の容器再検査設備を新設しました。

更に昭和42年には運送の簡略化のため、アセチレンと共に使用する圧縮酸素の充填設備を新設し、事業の拡大を図りました。アセチレン設備は24時間操業（3交代制）で高まる需要に対応しました。

昭和51年には液化酸素の充填設備を増設し、昭和53年の第2次オイルショックの影響を受けるなか、昭和55年にアセチレンの原料倉庫を増築し、安定供給を図ると同時に省エネに対する技術開発を一段と加速しました。

弊社では、この頃より原材料のカルシウム・カーバイドを中国に求め、中国公司（役所）や日本の商社などを通さない直接輸入に日本企業として初めて成功しました。今では、ドラム缶（225kg入り）を使わず、オリジナルのトン容器（1t入り）を通い箱（リターナブル）として中国と行き来させています。（写真①参照）

平成4年から数回にわたり「安全と技術の向上」を目的とした事業にも取り組み、定期的に中国より研修生を受け入れ、溶解アセチレンガス製造の技術交流を行いました。

これは、団塊世代の技術継承に伴う問題を解決し、現在では「保安資格取得補助制度」として、従業員の資質を向上させ、先人の安全と技術に対する意識を継承するものとなっています。



写真① 輸入カーバイドとオリジナルのトン容器

## ニーズへの対応と設備の拡充

バブル崩壊後、溶解アセチレンガスの生産減少に伴い、統合を目的とした活動が進み、神奈川県のアセチレン製造工場の内、横浜ケミカル株式会社（鶴見区）と、東海産業株式会社（茅ヶ崎市）を弊社に生産集約するため、平成8年に3社共同会社（現：相模アセチレン株式会社）を設立し、充填所建屋を増築しました。

平成11年には、サナミ商会瀬谷工場より液化炭酸、フロンガスの充填を引き継ぎました。平成12年には、消費の多様化に応えるべく、付加価値の高い製品製造を目指し、酸素、窒素、アルゴン、液化炭酸、混合ガスの総合

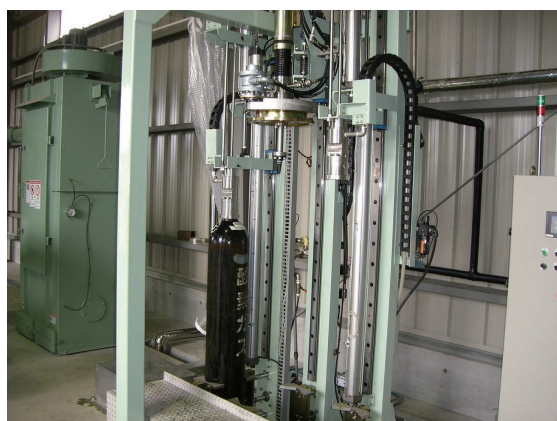


写真②Twinsの外観

充填工場をLPG充填工場跡地に建設しました。

「Twins」（双生児）の愛称をつけた貯槽2基がその特徴です。これは沸点が大きく違う液化酸素（ $-183^{\circ}\text{C}$ ）と液化炭酸（ $-78.5^{\circ}\text{C}$ ）の貯槽2つを1基のタンクの中に内蔵させたもの（氷と熱湯が同居しているような状況）で、充填所への投入は世界初となります。（写真②参照）

平成16年には、容器再検査所を建て直し、耐圧試験機を水槽型からノーピットでコンパクトな非水槽型へと更新しました。（写真③参照）



写真③非水槽型の耐圧試験機

更に高度な容器再検査と完成度の高いアセチレン容器メンテナンスを新たな事業に加え、超高純度ガス、食品添加用ガス、医療用ガスなど多様化する商品ニーズに応えた充填設備を拡充し、食品、医療、エレクトロニクス等、新しい分野へと対応してきました。

## さらなる発展を目指して

平成25年には、事務所を建て直し、耐震性を高めました。（写真④参照）新事務所の4階には、掘りこたつから富士山が見える和室の部屋があり、社員からは「居酒屋か？」と、からかわれています。お近くにお越しの際はぜひお寄り下さい。

創業時の理念を忘れることなく、これまでの技術と経験の蓄積を基盤として日々の保守点検など自主保安に取り組み、更なる安全と発展を目指すとともに創業100年に向けた新たな挑戦を続け、歴史を積み重ねてまいります。



写真④新事務所の外観

（相模アセチレン株式会社 代表取締役 佐波 充）

## JIMGA刊行物のウェブサイト掲載のご案内

### 安全データシートおよびラベルについて

JIS Z 7253:2012対応の安全データシート（SDS）およびラベルをJIMGA会員ウェブサイトに掲載しました。

従来のMSDSと表示（ラベル）をそれぞれ規定していたJISを統合し制定されたJIS Z 7253：2012に従い、モデル版としてSDSを作成しましたのでご活用ください。

なお実際のSDSおよびラベルは、各製造者により製品に適した内容で作成することとなります。混合比により記載内容が変わるところは本文中に“（解説参照）”と記載し、文末に“解説文”をつけています。製品のSDSとして作成する際は、“（解説参照）”および“解説文”を削除してご利用ください。詳しくは以下のリンク先をご覧ください。

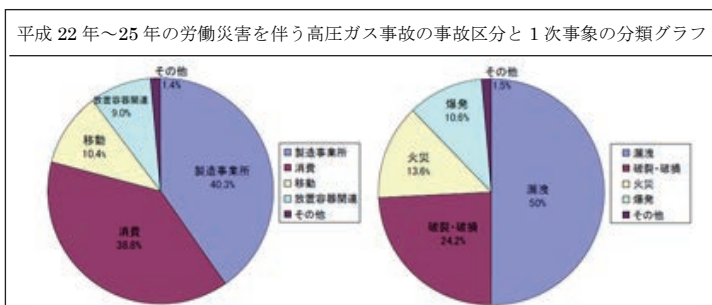
The image shows a screenshot of a web browser displaying a table of Safety Data Sheets (SDS). The table has multiple columns including product names, hazard classes, and SDS numbers. The interface is in Japanese and includes search filters and navigation options.

SDS一覧表(イメージ)

<http://sangyo-mem.jimga.or.jp/front/bin/ptdetail.phtml?Part=msds-01>

### 安全ニュースNo.9 について

『安全ニュースNo.9（平成25年高圧ガス関係災害事故分析）JIMGA-T-SN-11/15』を掲載しました。（掲載場所：JIMGAウェブサイト>産業部門>出版物>産業部門図書等一覧>ニュース）



掲載データの一部

KHK高圧ガス事故事例データベースより、「産業ガス業界に係る事故」として抽出し、今回は労災を伴う高圧ガス事故にフォーカスを当て、傾向分析のうえ掲載しました。各事業所での事故・災害撲滅にご活用ください。詳しくは以下のリンク先をご覧ください。

[http://www2.jimga.or.jp/dl/sangyo/all/book/list/news\\_safety\\_9.pdf](http://www2.jimga.or.jp/dl/sangyo/all/book/list/news_safety_9.pdf)

### 「産業ガス業界における地球温暖化対策への取り組み」について

環境・安全部会（環境保全WG）にて作成した『産業ガス業界における地球温暖化対策への取り組み（地球温暖化対策技術・実施例）』（2015年4月改訂JIMGA-T-S/95/15）をウェブサイトの“地球温暖化対策”に掲載しました。詳しくは以下のリンク先をご覧ください。



<http://sangyo-mem.jimga.or.jp/front/bin/ptdetail.phtml?Part=news20150422&Rcg=591>

（化学品安全WG、安全統計WG、環境保全WG事務局・大沼 倫晃）

※今回ご案内した刊行物の閲覧にはIDとパスワードが必要です。ご不明な点はJIMGA本部までお問い合わせください。